

森中学校 目指すべき子ども像

- 自分の幸せを実感できる**自己肯定感**をもつ子
- **コミュニケーション力**をもち、周りと協調できる子



1、「目指すべき子ども像」について

「目指すべき子ども像」とは学区の小中学校で共通した教育目標で、義務教育の9年間をかけて育てる資質や能力です。生徒保護者・地域に広く周知して、一緒に育んでいくことを目指しています。

2、「自己肯定感」と「コミュニケーション力」

21世紀に入って、社会が大きく変わってきています。グローバル化、IT化の進展やAIの目覚ましい進歩などにより、今までとは異なった資質や能力が必要になってくると予想されています。昨年度より本校でも教職員を中心に、森中生として培いたい、これから求められる資質や能力について話し合いを重ねました。その中で「自己肯定感」「コミュニケーション力」という言葉がキーワードとなりました。

「自己肯定感」とは自分を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などを意味する言葉です。日本の子どもの自己肯定感がアメリカ合衆国、中華人民共和国、大韓民国の子どもに比べて低いことがさまざまな調査などで指摘され、自己肯定感が注目されています。本校の生徒の様子を見ても、自己肯定感をもつことは課題の一つであると言えるでしょう。

「コミュニケーション力」はグローバル化の進展した社会では必要な能力であることが明白です。しかしコミュニケーション力＝言語力ではありません。良好なコミュニケーションと何かを学校教育の中で突き詰め、その力を育むことも難しい課題といえます。

本校では、この2つの課題に向き合い、生徒保護者・地域（学区小学校）と協力して、2つの資質・能力を培う教育を行うことで、21世紀を生き抜くことができる人間の育成を目指していきたいと思っています。

